

(様式3)

合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート(事後評価)

評価実施年月:平成27年3月

1. 対象事業	福知山市合流式下水道緊急改善事業																													
2. 実施主体名称	京都府福知山市																													
3. 計画期間	平成17年度～平成23年度																													
4. 対象事業の進捗状況	○下記の内容について、当初計画通り実施し完了した。 ①汚濁負荷量の削減 ・汚濁負荷が高い降雨時初期の合流下水を貯留する貯留施設を築造する。 ②公衆衛生上の安全確保 ・雨水吐口からの未処理下水の放流回数を半減させる貯留施設を築造する。																													
5. 目標の達成状況と達成の見通し	【改善目標】 <table border="1"><thead><tr><th>改善項目</th><th>改善目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>①汚濁負荷量の削減</td><td>BOD年間負荷量を分流式下水道並みに削減する。 (BOD年間負荷量 53.7t→31.4t)</td></tr><tr><td>②公衆衛生上の安全確保</td><td>雨水吐口からの未処理下水の放流回数を半減させる。 (年管放流回数 42回→20回)</td></tr></tbody></table> 【目標に対する達成状況】 <table border="1"><thead><tr><th>改善項目</th><th>評価指標</th><th>改善前</th><th>改善目標</th><th>事後評価</th></tr></thead><tbody><tr><td>緊急改善事業</td><td>合流式下水道改善率</td><td>0%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>①汚濁負荷量の削減</td><td>BOD年間負荷量</td><td>53.7t</td><td>31.4t</td><td>30.19t</td></tr><tr><td>②公衆衛生上の安全確保</td><td>未処理下水の放流回数</td><td>42回</td><td>20回</td><td>20回</td></tr></tbody></table> <p>※汚濁負荷量の事後評価は、事業後のモニタリングをもとにしたシミュレーションから算出している。 ○シミュレーションによる放流回数20回に対して、平成23年9月から平成24年8月の1年間の実績放流回数は14回となっており、実績汚濁負荷量も放流回数と同様にシミュレーションに比べ3割程度削減できているものと推定される。 ○改善計画を基に事業を実施し、改善目標を達成している。</p>				改善項目	改善目標	①汚濁負荷量の削減	BOD年間負荷量を分流式下水道並みに削減する。 (BOD年間負荷量 53.7t→31.4t)	②公衆衛生上の安全確保	雨水吐口からの未処理下水の放流回数を半減させる。 (年管放流回数 42回→20回)	改善項目	評価指標	改善前	改善目標	事後評価	緊急改善事業	合流式下水道改善率	0%	100%	100%	①汚濁負荷量の削減	BOD年間負荷量	53.7t	31.4t	30.19t	②公衆衛生上の安全確保	未処理下水の放流回数	42回	20回	20回
改善項目	改善目標																													
①汚濁負荷量の削減	BOD年間負荷量を分流式下水道並みに削減する。 (BOD年間負荷量 53.7t→31.4t)																													
②公衆衛生上の安全確保	雨水吐口からの未処理下水の放流回数を半減させる。 (年管放流回数 42回→20回)																													
改善項目	評価指標	改善前	改善目標	事後評価																										
緊急改善事業	合流式下水道改善率	0%	100%	100%																										
①汚濁負荷量の削減	BOD年間負荷量	53.7t	31.4t	30.19t																										
②公衆衛生上の安全確保	未処理下水の放流回数	42回	20回	20回																										
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	①汚濁負荷量の削減 ・目標値を上回る負荷量を削減(達成率 105%) ②公衆衛生上の安全確保 ・目標値の放流回数を達成(達成率 100%)																													
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	○雨水貯留施設と分流化を比較し、経済的に有利な雨水貯留施設を採用した。																													
8. 今後の方針	○現状で当初の改善目標は達成できており、今後も放流水域の悪化防止のため、維持管理に努めていく。 ○夾雑物の削減は、H27年度の機器更新時に、スクリーンの細目化により改善予定。																													